

活動テーマ

Hanno Happy Woody Project
—木材を有効活用して観光まちづくり—

飯能市下名栗地区 駿河台大学

1 活動目的

活用されない木を有効に利用し、地域活性につながる楽しいプロジェクトを行うこと。

2 活動地域の現状

森林率 94%の飯能市下名栗地区では過疎化がすすんでいる。飯能市の人口ビジョンによると、人口推計は右肩下がりとなり、高齢化率の上昇も、2025年には50%に迫る勢いである。子どもの減少も著しく、名栗小学校では、2010年度に105人だった全校児童数が17年度は29人となっており、少子高齢化の進行が極めて早い。持続可能な社会をつくるためには、山間地域に人が留まる仕組みづくりが急務となっている。

一方で、かつて林業で栄えた名栗地区では、西川材に関わる事業所の数が減り続けている。また、間伐された木々は放置されたままとなっている。林道の整備もままならず、倒木が放置されたままになっていることも多い。

3 活動内容

- ・動力機械の使い方を習いに行く（昨年度未修得者）
- ・飯能市や名栗地区行政センター、地域住民と連携しつつ、不要な材を集める。
- ・地区のイベントや祭りに参加し、自分たちの活動をPRする
- ・協力者を募る。特に子どもたちへの働きかけをする
- ・飯能市総合振興計画に基づいて、北欧を意識するため、北欧のまちづくりの事例の視察をする

4 成果

- ・3年次生全員がチェーンソー講習を受講し、伐木、玉切りなどを自分たちの手でやれるようになった。
- ・作業場所となっている施設に隣接する森で伐採許可がでたので、ここで伐木し、玉切りにして活用し、いすの作成を行った。伐木してから乾燥させ、磨く作業があり、現在までのところ、30個程度が完成しているが、まだ湿気が籠っているため、もう少し乾燥させる必要がある。
- ・名栗地区で実施された「名郷味市」「ほたる観賞の集い」にスタッフ参加したほか、南高麗地区での春と秋の「お散歩マーケット」においても活動PRを行った。さらに、全国エコツーリズム学生シンポジウムに登壇し、活動について周知をした。
- ・子どもたちへの働きかけとして、一般社団法人里山こらぼと連携し、地元の子どもたちへの観光教育事業にスタッフとして参加した。
- ・3年次学生のうち2名が、夏季に株式会社ムーミン物語のインターンシップに参加、メッ

ツビレッジやムーミンバレーパークで北欧を意識した観光まちづくりについて実践的に学んだ。

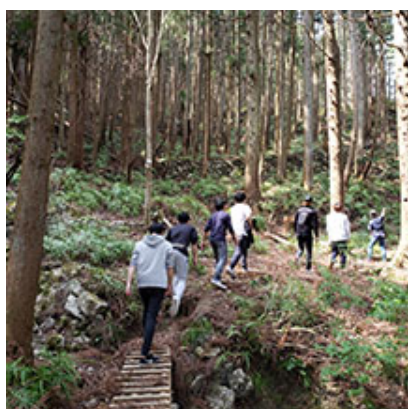
5 課題

- ・伐木から玉切りが思ったよりも重労働で、山から木をだすのも大変な作業。想定よりもずっと時間がかかる。
- ・チェーンソー講習について、制度の変更により5時間の追加の講習を受ける必要がある。

6 次年度以降の計画

- ・完成したイスをしばらく乾燥させたのち、下名栗の各所に配置する。
- ・配置したいすや西川材に関心を持っていただけるような、北欧をイメージしたイベントを企画運営する。

活動の様子



間伐する木の選定へ



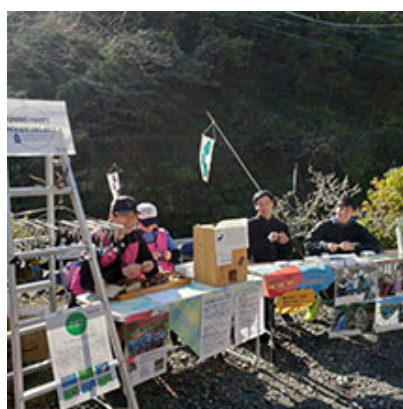
伐採した木の皮むき



玉切りした木



グラインダーで研磨



お散歩マーケットの出店



名栗ほたる観賞の集いにて